インターネット計測とデータ解析 第12回

長 健二朗

2011年1月12日

前回のおさらい

データマイニング

- ▶ パターン抽出
- ▶ クラス分類
- ▶ クラスタリング
 - ▶ 距離と類似度
 - ▶ クラスタリング手法
- ▶ 最終レポートについて

今日のテーマ

スケールする計測と解析

- ▶ 計算量
- ▶ 分散並列処理
- ▶ クラウド技術
- ▶ MapReduce

計測、データ解析とスケーラビリティ

計測手法

▶ 測定マシン側の回線容量、データ量、処理能力

データ収集

- ▶ 複数箇所からデータを集める
- ▶ 収集マシン側の回線容量、データ量、処理能力

データ解析

- ▶ 膨大なデータの解析
- 比較的単純な処理の繰り返し
- ▶ データマイニング手法による複雑な処理
- ▶ データ解析マシン側のデータ量、処理能力、分散処理の場合は通信能力

計算量 (computational complexity)

アルゴリズムの効率性の評価尺度

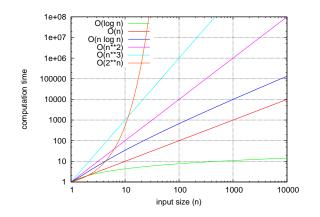
- ▶ 時間計算量 (time complexity)
- ▶ 空間計算量 (space complexity)
- ▶ 平均計算量
- ▶ 最悪計算量

オーダー表記

- ▶ 入力数 n の増大に対して計算量の増加する割合をその次数の みで表現
 - ▶ 例: O(n), $O(n^2)$, $O(n \log n)$
- ト より正確には、「f(n) はオーダーg(n)」とは、 ある関数f(n) と関数g(n) に対して $f(n) = O(g(n)) \Leftrightarrow$ ある 定数 C, n_0 が存在して、 $|f(n)| \le C|g(n)| (\forall n \ge n_0)$

時間計算量

- ▶ 対数時間 (logarithmic time)
- ▶ 多項式時間 (polynomial time)
- ▶ 指数時間 (exponential time)



計算量の例

サーチ

- ▶ リニアサーチ: *O*(*n*)
- ▶ バイナリサーチ: O(log₂ n)

ソート

- ▶ 選択整列法: O(n²)
- ▶ クイックソート: 平均で O(n log₂ n) 、最悪は O(n²)

一般に、

- ▶ 全変数を調べる (ループ): O(n)
- ▶ バイナリツリー構造など: *O*(log *n*)
- ▶ 変数に対する2重ループ: O(n²)
- ▶ 変数に対する3重ループ: O(n³)
- ▶ 全変数の組合せ (最短経路検索など): O(cⁿ)

分散アルゴリズム

並列アルゴリズム

- ▶ 問題を分割して並列実行
- ▶ 通信コスト、同期問題

分散アルゴリズム

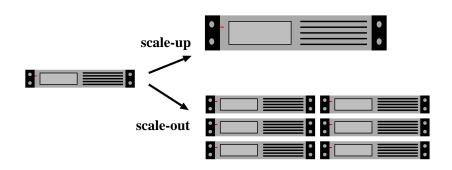
- ▶ 並列アルゴリズムのなかでも、独立したコンピュータ間の メッセージ交換のみによる通信を前提にしたもの
- ▶ コンピュータの故障やメッセージの損失を考慮

メリット

- ▶ スケーラビリティ
 - ▶ しかし、最善でも並列度に対してリニアな向上
- ▶ 耐故障性

スケールアップとスケールアウト

- ▶ スケールアップ
 - ▶ 単一ノードの拡張、強化
 - ▶ 並列処理の問題がない
- ▶ スケールアウト
 - ▶ ノード数を増やすことによる拡張
 - ▶ コスト効率、耐故障性(安価な量産品を大量に使う)



クラウド技術

クラウド: さまざまな定義がある

- ▶ 広くは、ネットワークの向うにあるコンピュータ資源 背景
 - ▶ 顧客ニーズ:
 - ▶ 計算資源、管理、サービスのアウトソース
 - ▶ 初期費用が不要、需要予測をしなくていい
 - ▶ それによるコスト削減
 - ▶ プロバイダ: スケールメリット、囲い込み

さまざまなクラウド

- public/private/hybrid
 - ▶ public cloud: インターネット経由の一般向けサービス
 - ▶ private cloud: 企業内利用向けのサービス
 - personal cloud, cloud federation
- ▶ サービス形態: SaaS/PaaS/IaaS
 - SaaS (Software as a Service)
 - ▶ ソフトウエアサービスの提供 (例: Google Apps, Microsoft Online Services)
 - PaaS (Platform as a Service)
 - ▶ アプリケーション用のプラットフォーム提供 (例: Google App Engine, Microsoft Windows Azure)
 - laaS (Infrustracture as a Service)
 - ► 仮想化サーバや共有ディスクなどハードウェアやインフラの提供 (例: Amazon EC2, Amazon S3)
 - cloud provider cloud user (utility computing)
 - SaaS provider SaaS user (web applications)
 - ▶ PaaS は、SaaS に third party を巻き込む仕組み
- ▶ スケールアウトクラウド / サーバークラウド

キーテクノロジー

- ▶ 仮想化: OS レベル、I/O レベル、ネットワークレベル
- ▶ ユーティリティコンピューティング
- ▶ 省エネ、省電力、低発熱
- ▶ データセンターネットワーキング
- ▶ 管理、監視技術
- ▶ 自動スケーリング、ロードバランシング
- 大規模分散データ処理技術
- ▶ 関連研究分野: ネットワーク、OS、分散システム、データベース、グリッド
 - ▶ 結構商用サービスの方が先を行っている

MapReduce

MapReduce: Google が開発した並列プログラミングモデル

Dean, Jeff and Ghemawat, Sanjay.

MapReduce: Simplified Data Processing on Large Clusters.

OSDI'04. San Francisco, CA. December 2004.

http://labs.google.com/papers/mapreduce.html

本スライドの MapReduce 部分はこの資料から作成している

動機: 大規模データ処理

- ▶ 何百、何千台規模の CPU を利用してデータ処理したい
- ▶ ハードウェア構成等を意識せず簡単に利用したい

MapReduce のメリット

- 並列分散処理の自動化
- ▶ 耐故障性
- ► I/O スケジューリング
- 状態監視

MapReduce プログラミングモデル

Map/Reduce

- ▶ Lisp や他の関数型言語からのアイデア
- ▶ 汎用性: 幅広い応用が可能
- ▶ 分散処理に適している
- ▶ 故障時には再実行可能

```
Map/Reduce in Lisp (map square '(1 2 3 4)) \rightarrow (1 4 9 16) (reduce + '(1 4 9 16)) \rightarrow 30
```

Map/Reduce in MapReduce

 $map(in_key, in_value) \rightarrow list(out_key, intermediate_value)$

- ▶ key/value ペアのセットを入力に、別の key/value ペアを生成 reduce(out_key, list(intermediate_value)) → list(out_value)
 - ▶ map() で生成された結果を使い、特定の key に対応する value をマージした結果を返す

例: 文書内の単語の出現頻度のカウント

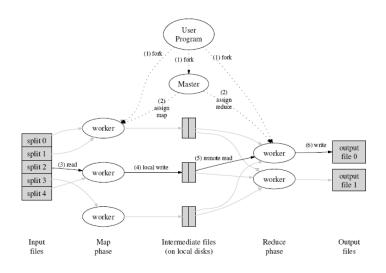
```
map(String input_key, String input_value):
    // input_key: document name
    // input_value: document contents
    for each word w in input_value:
        EmitIntermediate(w, "1");

reduce(String output_key, Iterator intermediate_values):
    // output_key: a word
    // output_values: a list of counts
    int result = 0;
    for each v in intermediate_values:
        result += ParseInt(v);
    Emit(AsString(result));
```

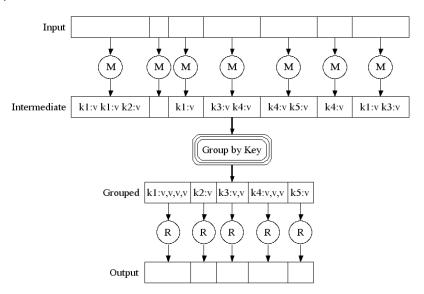
その他の応用例

- ▶ 分散 grep
 - ▶ map: 特定パターンにマッチする行を出力
 - ▶ reduce: 何もしない
- ▶ URL アクセス頻度カウント
 - ▶ map: web access log から < URL,1 > を出力
 - ▶ reduce: 同一 URL の回数を加算し < URL, count > を生成
- reverse web-link graph
 - ▶ map: source に含まれる link から、< target, source > を出力
 - ▶ reduce: target を link する source list < target, list(source) > を生成
- ▶ 逆インデックス
 - ▶ map: ドキュメントに含まれる単語から < word, docID > を 出力
 - ▶ reduce: 特定の単語を含むドキュメントリスト < word, list(docID) > を生成

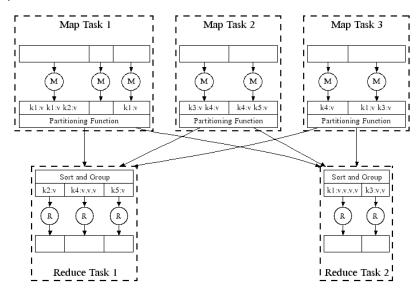
MapReduce Execution Overview



MapReduce Execution

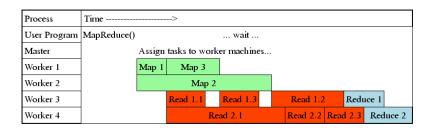


MapReduce Parallel Execution



Task Granularity and Pipelining

- ▶ タスクは細粒度: Map タスク数 >> マシン数
 - ▶ 故障復帰時間の低減
 - ▶ map 実行をシャフルしてパイプライン実行
 - ▶ 実行時に動的ロードバランシング可能
- ▶ 典型例: 2,000 台のマシンで、200,000 map/5,000 reduce tasks



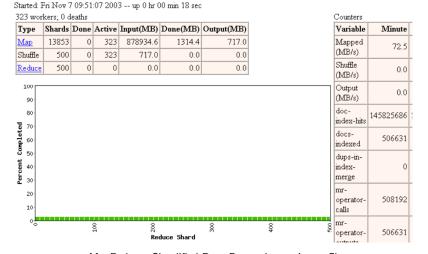
耐故障性

worker の故障

- ▶ 定期的なハートビートで故障を検出
- ▶ 故障したマシンの map task を再割当てして実行
 - ▶ 結果はローカルディスクにあるので終了した task も再実行する
- ▶ 実行中の reduce task を再実行
- ▶ master が task 終了を監視確認

1800 台中 1600 台のマシンが故障しても正常終了した実績

MapReduce status: MR_Indexer-beta6-large-2003_10_28_00_03



MapReduce status: MR Indexer-beta6-large-2003 10 28 00 03

Started: Fri Nov 7 09:51:07 2003 -- up 0 hr 05 min 07 sec

1707 workers; 1 deaths						
Туре	Shards	Done	Active	Input(MB)	Done(MB)	Output(MB)
<u>Map</u>	13853	1857	1707	878934.6	191995.8	113936.6
Shuffle	500	0	500	113936.6	57113.7	57113.7
Reduce	500	0	0	57113.7	0.0	0.0

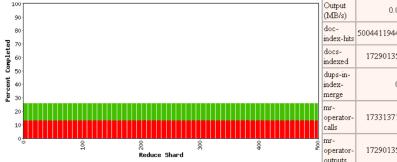
	(MB/s)	055.1
	Shuffle (MB/s)	349.5
	Output (MB/s)	0.0
	doc- index-hits	5004411944
	docs- indexed	17290135
	dups-in- index- merge	0
	mr- operator- calls	17331371
500	mr- operator-	17290135

Counters Variable

Mapped

Minute

699 1

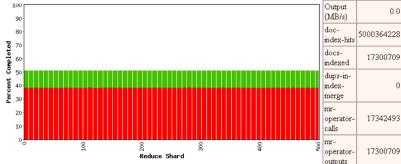


MapReduce status: MR_Indexer-beta6-large-2003_10_28_00_03

Started: Fri Nov 7 09:51:07 2003 -- up 0 hr 10 min 18 sec

1/U/ workers; 1 deaths						
Туре	Shards	Done	Active	Input(MB)	Done(MB)	Output(MB)
<u>Map</u>	13853	5354	1707	878934.6	406020.1	241058.2
Shuffle	500	0	500	241058.2	196362.5	196362.5
Reduce	500	0	0	196362.5	0.0	0.0

Counters					
Variable	Minute				
Mapped (MB/s)	704.4				
Shuffle (MB/s)	371.9				



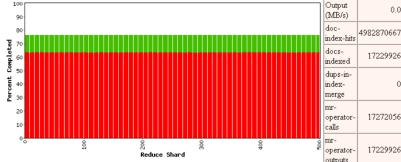
 $source: \ MapReduce: \ Simplified \ Data \ Processing \ on \ Large \ Clusters$

MapReduce status: MR_Indexer-beta6-large-2003_10_28_00_03

Started: Fri Nov 7 09:51:07 2003 -- up 0 hr 15 min 31 sec

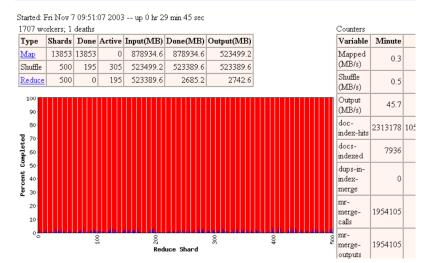
1707 workers; 1 deaths						
Туре	Shards	Done	Active	Input(MB)	Done(MB)	Output(MB)
<u>Map</u>	13853	8841	1707	878934.6	621608.5	369459.8
Shuffle	500	0	500	369459.8	326986.8	326986.8
Reduce	500	0	0	326986.8	0.0	0.0

Counters				
Variable	Minute			
Mapped (MB/s)	706.5			
Shuffle (MB/s)	419.2			
Outout				

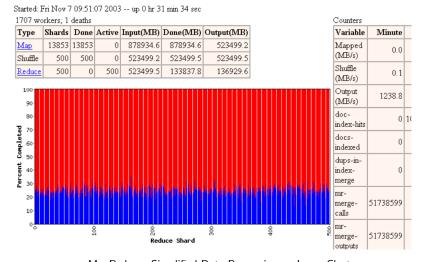


 $source: \ MapReduce: \ Simplified \ Data \ Processing \ on \ Large \ Clusters$

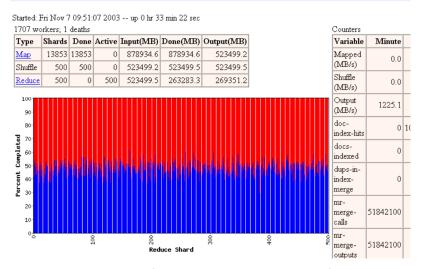
$MapReduce\ status:\ MR_Indexer-beta 6-large-2003_10_28_00_03$



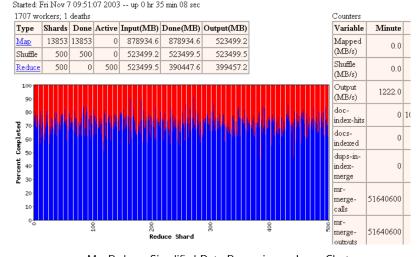
MapReduce status: MR_Indexer-beta6-large-2003_10_28_00_03



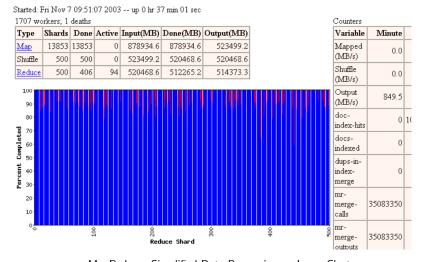
MapReduce status: MR_Indexer-beta6-large-2003_10_28_00_03



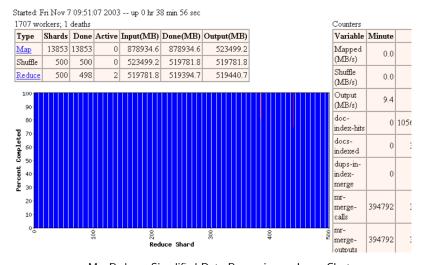
MapReduce status: MR_Indexer-beta6-large-2003_10_28_00_03



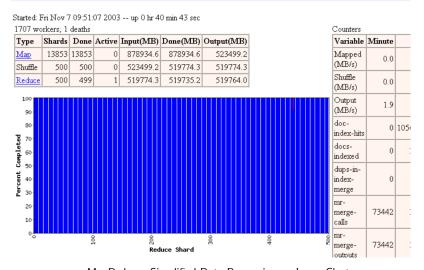
MapReduce status: MR_Indexer-beta6-large-2003_10_28_00_03



MapReduce status: MR_Indexer-beta6-large-2003_10_28_00_03



MapReduce status: MR_Indexer-beta6-large-2003_10_28_00_03



冗長実行

遅い worker がいると終了時間に大きな影響

- ▶ 別ジョブの影響
- ▶ ディスクのソフトエラー
- ▶ その他の要因: CPU cache が disable されていたケースも!

解決策: 全体処理終了近くで、backup tasks を起動

▶ 早く終了した task の結果を採用

ジョブ終了時間の大幅短縮に成功

ローカリティの最適化

Master のスケジューリングポリシー

- ▶ GFS に入力ファイルブロックの複製の位置を問い合わせ
- ▶ 入力を 64MB 単位 (GFS block size) に分割
- ▶ 入力データの複製があるマシンまたはラックに map task を 割当てる

効果: 何千台のマシンがローカルなディスクから入力を読み込み

▶ さもなければ、ラックのスイッチがボトルネックになる

不良レコードのスキップ

Map/Reduce 機能が時に特定のレコードの処理でクラッシュすることがある

- ▶ 原因はバグ: デバッグして問題解決するのが最善だが、そう 出来ない場合も多い
- ▶ Segmentation Fault の発生時
 - ▶ シグナルハンドラからマスターに UDP パケットを送信
 - ▶ 処理中のレコード番号を通知
- ▶ Master は同じレコードの不良が2回起こると
 - ▶ 次の worker にそのレコードをスキップするよう指示

効果: サードパーティ製ライブラリのバグ回避

その他の最適化

- ▶ 各 reduce パーティション内でソートされた順序を保証
- 中間データの圧縮
- ▶ Combiner: 冗長な結果を集約してネットワーク使用量削減
- ▶ デバッグやテスト用のローカル実行環境
- ▶ ユーザ定義のカウンタが利用可能

性能評価

1800 台のマシンクラスタを使った性能評価を実施

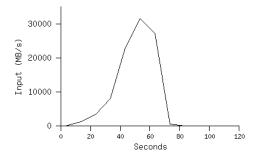
- 4GB of memory
- Dual-processor 2GHz Xeons with Hyperthreading
- Dual 160GB IDE disks
- ► Gigabit Ethernet per machine
- Bisection bandwidth approximately 100Gbps

2種類のベンチマーク

- ▶ MR_Grep: 10¹⁰ 100B レコードをスキャンして特定のパター ンを抜き出す
- ▶ MR_Sort: 10¹⁰ 100B レコードをソート (TeraSort ベンチマークのモデルを利用)

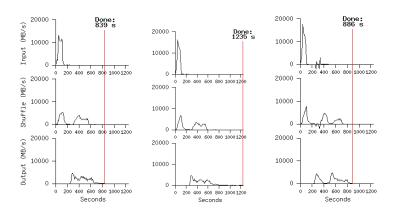
MR_Grep

- ▶ ローカリティ最適化効果
 - ▶ 1800 台のマシンが 1TB のデータを最大 31GB/s で読み込み
 - ▶ さもなければ、ラックスイッチがボトルネックで 10GB/s 程度
- ▶ 短いジョブでは始動時のオーバヘッドが大きい



MR Sort

- ▶ backup task による完了時間の大幅短縮
- 耐故障性の実現



MapReduce まとめ

- ▶ MapReduce: 並列分散処理の抽象化モデル
- ▶ 大規模データ処理を大幅に簡略化
- ▶ 使い易い、楽しい
 - ▶ 並列処理部分の詳細をシステムにまかせ問題解決に専念できる
- ▶ Google 内部で検索インデックス作成をはじめさまざまな応用

補足

- ▶ Google の MapReduce 実装は非公開
- ▶ Hadoop: Apache プロジェクトのオープンソース MapReduce 実装

まとめ

スケールする計測と解析

- ▶ 計算量
- ▶ 分散並列処理
- ▶ クラウド技術
- ▶ MapReduce

次回予定

第13回 まとめ (1/19)

- ▶ これまでのまとめと今後の展望
- ▶ WIDE プロジェクトの計測研究